

総合 計画 体系	政策名	Ⅱ 環境に配慮した安全・快適な生活環境づくり 《定住環境》	施策主管課	下水道課
			施策統括課長	藤原 重信
	施策名	11 下水道の整備	関係課	市民環境生活課,工務課,営業課,水道局総務課

1. 施策の目的と指標

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)		対象指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
	目的	市民	A	人口	人	実績	42,428	41,917	41,159			
見込								41,159	41,032	40,650	40,323	
B			実績									
			見込									
C			実績									
			見込									
②意図(どのような状態にするのか)		成果指標		単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
目的		衛生的な生活環境の中で暮らすことができる。	A	下水道接続率	%	実績	72.9	75.3	76.8			
						目標		(72)	75.5	77.0	78.5	80.0
			B	下水道整備率	%	実績	84.3	86.3	88.1			
						目標		(85.1)	86.2	87.2	88.3	89.3
C		実績										
D	目標											
成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由)		A)B)下水道の整備が進めば、衛生的な生活環境につながると考えた。										
成果指標の測定企画 (実績値の把握方法)		A)下水道課で把握 B)下水道課で把握										
目標設定とその根拠 (基本計画策定時)		A)下水道接続率は、現在の整備状況と今後の計画、これまでの接続状況を勘案し、成行値は年1ポイントずつ伸びると予測した。 目標値は、啓発活動の強化により、成行値以上の成果を目指すこととし、年1.5ポイントずつ伸ばすこととした。 B)下水道整備率は、成行値、目標値ともに下水道整備計画に基づき整備していくこととし、その計画量から算出した数値とした。										

2. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
① 下水道接続の促進	下水道整備済内の未接続の人	下水道に接続する。	下水道接続率	%	実績	72.9	75.3	76.8			
② 下水道施設の維持管理	下水道整備済地区の人	安心安全に下水道を利用できる。	緊急対応出動回数	回	実績	228	218	227			
③ 下水道整備の推進	下水道未整備地区の人	下水道に接続できるようにする。	下水道整備率	%	実績	84.3	86.3	88.1			
④ 下水道経営の安定化	下水道事業経営	健全に運営する。	料金収納率(現年)・経常収支比率	%	実績	98.9 142.2	99.0 154.3	99.2 169.6			
⑤					実績						

3. 施策の役割分担と状況変化

① 役割分担	住民(事業所、地域、団体)の役割	行政(市、県、国)の役割
	●下水道整備の必要性を認識し、加入接続する。	●下水道を整備する。 ●住民や地域に対する情報発信、啓発活動を行う。
② 状況変化	A) 施策を取り巻く状況(対象や根拠法令、社会情勢等)は、今後どのように変化するか?(本年度を見越して)	B) この施策に対して、住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	○人口減少により、使用料収入が伸び悩む懸念がある。○国の水質基準の厳格化によっては管理経費等が増加する可能性がある。○施設の老朽化等により維持管理経費が高む傾向にある。○国では、下水道会計の企業会計への移行を指導する方向にある。	○特に意見や要望は受けていない。

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準)	
<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	背景・要因 ○整備(普及)率は、全国平均86.9%、県平均73.4%(松江市97.0%、出雲市77.8%、安来市82.9%)、雲南市88.1%であり高い水準である。

平成24年度施策マネジメントシート2(平成23年度実績の評価)

《11 下水道の整備》

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

時系列での比較(成果水準の推移)	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	背景・要因 ○整備率については、大東特環公共下水道の整備がほぼ完了したこと、合併処理浄化槽の整備が進んだことにより、向上した。また、整備の進捗に伴って接続率も向上した。

5. 施策の振り返り評価

施策の目標達成度(前年度の成果指標値に対する実績値の達成度)	
<input checked="" type="checkbox"/> 目標値より高い実績だった <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	背景・要因 ○整備率は、大東特環公共下水道の整備がほぼ完了したこと、合併処理浄化槽の整備が進んだことにより、目標値を1.9ポイント上回った。それに伴い接続率も1.3ポイント上回った。

基本事業	取り組んだ事務事業の総括(事務事業貢献度評価:貢献した事務事業、課題が残った事務事業)
① 下水道接続の促進	・大東特環公共下水道の整備がほぼ完了したことにより、接続率の向上につながった。
② 下水道施設の維持管理	・農業集落排水施設の修繕計画を策定するために、機能診断業務(H23～H25年度)を開始した。 ・施設等の修繕や緊急対応に迅速に取り組んだ。
③ 下水道整備の推進	・大東特環公共下水道整備事業はほぼ完了した。 ・浄化槽施設整備事業では、約67%の整備が完了した。
④ 下水道経営の安定化	・滞納システムを導入し、事務の効率化が図られた。 ・汚泥の処分単価等委託料の見直しを行い、経費の縮減に努めた。
⑤	

6. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策	○接続率の向上を図る必要がある。 ○施設の老朽化が進んでいる。 ○下水道の整備は定住化の必須条件になっている。 ○健全経営に努めていく必要がある。	○接続率の向上を図っていく。 ○計画的に施設を更新していく。 ○計画的に下水道整備を進めるとともに、下水道に対する理解を深めていく。 ○下水道経営の安定化に努める。
基本事業	① 下水道接続の促進	○接続率の向上に向け、住宅改修に係る補助制度を周知するなど、促進のための普及・啓発に努める。
	② 下水道施設の維持管理	○農業集落排水施設について、機能診断を行い最適整備構想を策定する。 ○公共下水道は、H24年度実施の機能調査業務に基づき修繕を行っていく。
	③ 下水道整備の推進	○MICS事業による雲南クリーンセンター整備計画との連携を取っていく。 ○集合処理区域外では、合併処理浄化槽の整備促進を図る。
	④ 下水道経営の安定化	○使用料の未納対策に努めていく。 ○適正な下水道事業運営に向けて、下水道事業に関する審議会で検討していく。
	⑤	